



2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は大学卒業後、今は存在していない職業に就く。(ニューヨーク市立大学教授 キャシー デビッドソン)

30数年前ワープロが普及し始めました。まだタイプライターが活躍していた時代。今では全てパソコンになりました。プログラマー、SE、NEなどという職業は当時考えられなかった職業です。現在、スーパーのレジはセルフレジが普及し始めています。レジ打ちの仕事はなくなるか激減するでしょう。どんな職業ができるのでしょうか？

技術革新は私たちの想像をはるかに超えるスピードで進んでいます。冒頭の65%という数字はあまり根拠のないものだったようですが、仕事は100%変わっていくでしょう。

今存在しない職業に就く子ども達に今、私たちができることは何なのでしょうか？

来年度改訂になる保育所保育指針では、1. 個別の知識や技能の基礎 2. 思考力・判断力・表現力等の基礎 3. 学びに向かう力、人間性 この3つの柱を「遊びを通しての総合的な指導」により育てることが中心になっています。「遊ぶ」というと真面目な大人は罪悪感を覚えるのですが、子ども達の学びは全て遊びを通じておこなわれます。身体を使って、想像力を働かせて、様々な遊びに取り組むことで大きな可能性を獲得します。学童期以降の学習のように机の前に座って与えられるものではなく(小学校以降の教育要領も2020年度以降改訂になり、能動的な学び、アクティブラーニングを主眼に置くようになっていますが)、自分から積極的に獲得しに行くことがこの時期の子ども達の学びの真の姿です。

今回の保育指針の改訂にことよせましたが、子ども達の学び=遊びが能動的になるよう環境を整えることが、私たちの務めであり、子どもたちにとって最大の贈り物になると考えています。

今回は、子どもたちの保育環境を考える基礎の部分について述べましたが、次回から少しずつ具体的なことについて触れていきたいと思いません。

2017. 8. 24 後藤尚美